

平成二十三年度

あかねさす蒲生野短歌会入選作品一覽

【一般の部】

蒲生野大賞

一枝をわれに手折りて君去りし

のち幾秋を香る木犀

滋賀県東近江市

田附 孝子

紫野賞

夫逝きてさみしき夕べ枝垂れ桜

われに背なより絡みておくれ

岐阜県大垣市

三宅 雅子

標野賞

遠き日の片恋の君夢に来て

シヨパンのレコード返してと言ふ

大阪府箕面市

辻 豊子

特選

夏蚕飼い繭を紡いで糸を染め

矢絣織し母惚ぼるる

徳島県阿南市

櫻原 和子

あなたとは壺万四千八百日

共に思ひて生きて来たりき

京都府舞鶴市

鯡本 ミツ子

残されし身の寂しきや夜遊びに

猫の行きたる窓閉ざるとき

京都市山科区

武田 節子

傘寿にて逝きにし妻の手箱より

婚前のわが文の束出づ

神奈川県鎌倉市

宇津井 寛

幾年をいくとせ寄り添いくらす蒲生野に

彼岸花ときさく季めぐり来ぬ

滋賀県東近江市

大野 恵子

佳作

甘やかな蜂蜜色の君の髪をカットしたのは御成婚の日

名古屋市中区

東 なおみ

若く逝きし男の子と遊びし蒲生野に野あざみの色ほの赤かりき

千葉市美浜区

北神 照美

蒲生野に立ちたる虹の大きくて悲しきことをしばし忘れぬ

兵庫県西宮市

澤瀉 和子

草を刈る人の姿に亡夫重ね思い出しばし青田に広がる

滋賀県東近江市

塚本 登志子

離れ住む君より届くメール読み仰ぐ夜空に星が流れる

北海道稚内市

藤林 正則

蒲生野はいま夕影に包まれて袖振る君に逢えそうな予感

滋賀県東近江市

中寺 すみ子

いづくにか草焼くにはほひの流れくる町のゆふぐれちちはは思ふ

大分県中津市

磯田 温子

【相聞歌の部】

相聞歌賞

ごま豆腐ふるふを掬ふ逢ひたるを

束の間なりときめりてよいか

袖口にねずの襦袢の柄がらも見ゆ

呼び返されむを乞ひ願ひたり

高知県香美市

町 耿子

【小学生の部】

優秀賞

おかしいな3センチもせがのびたのに

おにいちゃんにはおいつけないよ

蒲生西小学校 2年 西塚 隆太郎

特選

ひるさがり太陽ひまわりならめっこ

どちらもいつも笑っているなり

愛知川小学校 6年 黒田 果甫

友達を公園にさそい遊んだよ

夏雲の下思い出増えた

八日市西小学校 5年 村井 風斗

かきごおりたべたらあたまきんとする

それでもたべるきんきんするよ

蒲生西小学校 2年 植出 奈緒美

佳作

こいっばいえさやらないけのぞきわくわくするよこっちへおいで

金城小学校 1年 宮川 あかり

おとうさんかおのいろはくろぎとうなまえはさとるきとうににてるよ

平田小学校 4年 上松 凜音

なつやすみそうげんの上にくもがあるくものおくにはまつきおなそら

八日市西小学校 6年 羽田 有沙

よぞらにねいちばんぼしがかがやくよなんにんの人がみつけただろ

八日市西小学校 6年 野田 ひかる

夢がなくひらりとゆれるもみじ見て自分の心に愛の花咲かす

湖東第二小学校 5年 小川 文一郎

【中学生の部】

優秀賞

太陽はぼくの体を黒くする

がんばっただけ色が濃くなる

湖東中学校 2年 國領 真優

特選

イタリアのミラノの町はゴミだらけ

町は苦しみマフィアは笑う

近江兄弟社中学校 2年 加藤 大晟

桜散り桃色軽く踏みしめて

また会おうねと小さく思う

伊吹山中学校 2年 馬場 佑佳

おもいだすともとあばれたあのころを

いまはわかれてなにしているかな

愛東中学校 3年 吉田 一輝

佳作

自分の字きれいにしたいしかし字に集中しすぎ両手がいたし

近江兄弟社中学校 2年 戸川 夏樹

質問ない?そう聞かれたらとまどっただって店長一番偉いから

虎姫中学校 2年 草野 祐樹

毎日が楽しい学校最高やずっとこのまま青春したい

朝桜中学校 3年 坊木 さつき

なぜだろうどうぶつはみなはなせないそれはひとつのまほうだろうか

伊吹山中学校 2年 杉本 実優

おとうとはいろんなかおをするんだよ泣いておこってニコニコわらう

愛東中学校 1年 入江 駿乃

【高校生の部】

優秀賞

この恋がめでたく実り大満足

実はその後を想定してない

山口県防府市 上野 混大

特選

泣きたくて泣けない夜はメールする

自然と零れる君への想い

山口県防府市 善本 智有

つゆあけはあついあついのひとりごと

それしかことばうかんでこない

滋賀学園高校 1年 塚本 大耀

だいすきななつがことしもやってきた

きれいなはなびえがおのはなび

滋賀学園高校 1年 河並 里菜

佳作

「愛してる」だけ言いたくてメールする私が君で溢れる瞬間

山口県防府市 池永 優光

しんどくてにげたくなつたひびがいまラストスパートおもいでつくり

滋賀学園高校 3年 田中 明博

なつのそら見上げてみればきらきらとあおくまぶしくこころがはずむ

滋賀学園高校 1年 伴 亜佑美

世のうわさ Be quiet 耳ふさぐ行ったことない世界に行きたい

福岡県北九州市 古藤 翔平

## 【選評】

安田純生

蒲生野大賞の歌は、木犀の咲く時期になると、その枝を折ってくれた異性を思い出していることを詠んでおり、物語的な内容で、「幾秋を香る」といったところもおもしろい。紫野賞の歌は、しだれ桜の枝に対し、自分に絡んでくれと願っているのだが、妖しげであるとともに、亡き夫への強い気持ちも感じられる。標野賞の歌は、なぜ、シヨパンの曲のレコードなのであろうか、と思ってしまうが、「片恋」だから、別に、そのレコードを借りた事実があつたわけではなく、自身も不審に思っているように解し得る。相聞歌賞の歌も物語的で、「ごま豆腐」「襦袢」といった、いわば小道具が生きている。「今の片時の逢引だけなのか」という問いに対し、「いえ、きょう、別れても、すぐに呼び戻してほしい」と応じているのであろう。